

激戦の最中に、時ならぬ笛、太鼓の音に、城下で戦っていた敵の兵士たちも、何ごとだろろうと戦いをやめました。そのとき、小松の獅子の一行が来たので、敵の兵も会津の兵もあつけにとられて見おくつていました。

お城に近づくにしたいがい、お城では、

「あの笛や太鼓の音は、小松の獅子舞ししまいのものです。」

「小松の獅子舞の後から、来られるのは、山川国家老殿こがさいまでございます。」

と、喜び勇み、お城の門扉を開き、山川大蔵やまかわたいざうの一行を入城させました。こうして、一兵も損じることなく、お城に戻ることができました。

お城に入った小松の人々も、雑役に従事して、侍たちと一緒にお城を守ったということ
です。

会津戦争も、会津の敗戦で終り、まつだいらかたもりこう松平容保公は、おやくえん御薬園にゆうへい幽閉の身となりました。

かたもりこう容保公は、